

川上宏奨学基金報告書

題目 演劇におけるミスの修繕と劇場フレーム—会話分析とフレーム分析の適用実践—

2016年度川上宏奨学基金をいただき、卒業論文「演劇におけるミスの修繕と劇場フレーム—会話分析とフレーム分析の適用実践—」を書き上げることができた。以下、論文の内容と調査方法について報告する。

1. 研究概要

本論文では、豊かな文化芸術の発展に貢献することを目的とし、文化芸術の中でもとりわけ、音楽や美術などに比べて社会的認知度が低いとされている演劇を研究題材とした。具体的には、Sacksらの会話分析の順番交替および修復という概念装置と、Goffmanのフレーム分析の適用と実践を行った。なお、題材には、受給者が出演した商業演劇の稽古・公演動画を使用しており、ミスへの修繕過程に焦点を当てたものを中心としている。いずれも理解が容易ではない修復とフレーム分析とを具体例にあてはめたことが本論文の貢献の一部である。

2. 研究方法と手順

2015年5月に上演された（受給者も役者として出演している）X劇団の稽古・公演映像を分析材料とした。データの使用に関しては、劇団の制作側と映像出演者12名から同意書への署名というかたちで承諾を得た。データを基に、エスノメソドロジー・会話分析とフレーム分析を援用した相互行為分析を実施した。その際、演劇におけるミスの修繕手段がみられる事例と、フレーム分析の特徴が観察された事例をいくつか提示して分析した。

映像を分析するにあたって、「RealPlayer」と「ELAN」というソフトを使用し、会話分析に必要な詳細なトランスクリプトを作成した。なお、受給者は、相互行為分析を実践するにあたり、指導教員である南保輔教授らの「ビデオデータセッション@成城」研究会に定期的に参加し、会話分析の手法や分析法を学んだ。

研究の手順としては、第1に、Sacksらの会話分析とGoffmanのフレーム分析の知見を整理し、検討した。第2に、実際の演劇データを基に相互作用分析を実施した。そして第3に、分析結果から両者の知見の有効性、妥当性について検討した。

3. 調査結果

実際の演劇の録画データをもとに詳細な相互作用分析を実施した結果、会話分析およびフレーム分析の妥当性を示す結果を得ることができた。以下、両者の知見の有効性について事例を基に考察する。

まず、ミスへの修繕として、「やり直し」、「ひやかし」、「埋め込み訂正」という3つの事例が観察された。1つ目の発話重複による「やり直し」の事例では、会話分析でいう順番交替のトラブルに対応する修復とほぼ同じやり方で修繕がなされていたものの、時間をさかのぼってある時点から発話の全体をやり直すという点では異なっていた。2つ目の言い間違いへの「ひやかし」では、周囲がミスをした本人をひやかすことによりミスをトピック化し、ミスさえも演劇世界にとりこもうとする役者たちの努力がみられた。3つ目の言い間違いによる「埋め込み訂正」は、Jefferson のいう、ミスを露わにせずに訂正しながら進行中のやりとりを継続させようとする、「埋め込み訂正」(embedded correction) の事例と位置づけることができた。これらの修繕手段は、演劇舞台でのものではあるが、日常会話とほぼ同じメカニズムによってなされていた。また、舞台上の役者たちは、「ひとつの情報状態を共有している」ために、当事者間の理解ではなく、観客の理解を調達することを念頭に演技をしていた。

劇場フレームの特徴には、3つの装置が見られる事例が観察された。第1に、舞台上の役者には、「役者」と「登場人物」の「二重の自己」の存在がみられた。この「二重の自己」の切り替わりは、役者たちの身体に如実に見てとることができた。第2に、演劇そのものの開始と終結を示す「外的括弧」や劇中劇を終結させるといった「内側の括弧」が観察された。第3に、劇中で登場人物が観客に「直接的な呼びかけ」をし、観客は間接的にそれに応じるといった相互行為が営まれていた。これらの装置は、劇場で起こっていることの理解に効果的であった。

上記より、本論文では、Sacks, Schegloff & Jefferson の会話分析および Goffman のフレーム分析の知見の妥当性と有効性を示す結果を得ることができた。

4. 卒業論文を書き終えて

「演劇」とはなにか。本論文がこの問いを紐解く一端となり、本論文を通じて、演劇関係者に少しでも貢献できたらと願う。そして、演劇鑑賞するしないにかかわらず、より多くの人々へ演劇の奥深さを伝えられる一助となれば幸いである。今後は、演劇の実践者という立場から、芸術と社会の結びつきを今一度考えていきたい。

最後に、論文を書き上げるためにご支援を賜った、故川上宏先生とそのご家族、関係者の皆さまに、心から感謝申し上げます。